

はじめに

- 本県では、平成24年から足掛け8年にわたり「芯の通った学校組織」の確立による学校改革を進めてきました。この間、学校の組織的課題解決力は着実に向上するとともに、小・中学生の学力は全国平均を上回り、体力においては全国に誇れる水準まで向上するなど、教職員一人一人の弛まぬ努力の成果が、子どもたちの力となって着実に現れてきています。
- しかしながら、近年、これまで学校を支えてきた多くのベテラン教職員が退職を迎え、若手教職員の育成、全国的な労働力不足の中での人材確保、そして学校における働き方改革が課題となる中、生徒指導や特別支援教育など複雑化・多様化する様々な課題の解決を図るためには、教職員や学校内の多様な人材が目標に向かって組織的に取り組むことが不可欠です。
- このような時代にあって、学校マネジメントを機能させ、組織的課題解決力の向上を図ることで持続的・発展的な教育活動の実現を目指す「芯の通った学校組織」の取組は、これまで取り組んできたことの達成感を味わいつつも、本県教育における学校運営の基本に据えて、今後も取組の質を向上させていく必要があります。
- そして、新しい学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、育成を目指す資質・能力を明確にした学校の教育目標と重点目標の下、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントとして「学校評価の4点セット」の検証・改善を実施することや、コミュニティ・スクール等を活用して家庭や地域と目標やビジョンを共有し、学校・家庭・地域の役割分担を明確化・適正化しつつ一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を図ることは、学校における働き方改革の推進に繋がるものであることを踏まえ着実に取組を進める必要があります。
- 第3ステージにおける校長には、教育活動を組織的・効率的に進め学校のパフォーマンスを最大化するため、目標達成マネジメントと組織マネジメントを両輪とする「芯の通った学校組織」の取組を基盤として、教職員の人材育成や働き方改革を進めつつ、教育課程の充実や「地域とともにある学校」として家庭や地域との連携を図るなど、これまで以上に広範かつ積極的なマネジメント力と、見直すべき学校運営体制や取組等はスピード感を持って積極果敢に改革するリーダーシップが求められます。
- 本プランの計画期間である3ヵ年（令和2～4年度）においては、市町村教育委員会とより緊密な連携を図り、本県の全ての子どもたちが未来を切り拓く力と意欲を身に付けることができるよう、「教育県大分」の創造に向けて不断の努力を継続し、着実なプランの実行を図ることとしています。